

時の肖像を たどる



志津川村・荒砥浜・清水浜が合併（明治8年）して誕生した本吉村が、「志津川町」になって110年。時代の流れと共に、町も変化を遂げてきました。養蚕の町として栄えた時代も、戦災や地震・津波などの悲劇の時代も、そして志津川町・戸倉村・入谷村が合併（昭和30年3月）した祝祭の日も、そこには、その時、その場所で、精一杯に生きた先人の足跡がありました。時代をさががけ、その道を拓き、時には互助の精神で困難も乗り越えてきた、その確かな「歴史」は、志津川遺伝子となって、今を生きる私たちの心に、脈々と流れています。町の歩みは、私たちに、この地に生きる誇りと喜びを実感させてくれます。



伝統の技が活かせる。ふれあいが広がる。
訪れた人と共に学び、喜び合えることが楽しい。
町の皆さんと協力して、志津川にもっと元気を。

「思い出の校舎を残したい」「時代が変わり、見向きもされなくなった技や生活文化を活かすことで、地域の活性化に役立たい」と思った旧林際小学校卒業生十二名が中心となって始めた『さんさん館』。誕生して五年、地域にはこれまでにない明るさと活気が生まれています。四季を通して楽しめる多彩な体験メニューの先生は、全員地元の人たち。その数およそ二百名。「これまでずっと地域を守ってきた人たちの協力なしには成り立たない。志津川の自然を共有する海の人たち、町内のお店やホテル・民宿など町全体と連携しながら、これからも楽しくやっていきたい」と頑張っています。

廃校になった旧林際小学校を活用した志津川生活体験の拠点
❖グリーンツーリズム体験校舎の宿さんさん館

来てもらわないと、入谷の良さは伝わらない。
入谷を、後世に残る“桃源郷”に。
百年先・百五十年先を見据えた地域おこしを。



「ひとりの里」を活用して
地域活性化を図ろうと民意自力で発足
❖入谷グリーンウェイブ
入谷地区の全戸、約五百二十戸が加入する「入谷グリーンウェイブ」は、入谷地区に関わる活動すべてを網羅する組織です。平成三年、押し寄せる少子・高齢化の波に対して「自分たちで何とかしなければ」と結成。住民それぞれに、その必要性を感じていたため、みんなが快く一致団結することに。「入谷には、あふれるほど豊かな人情味がある。さんさん館などを活用し、入谷の魅力を生かした活動を進めたい」と、他地域の視察に始まり、そば打ちによる地域おこし、農産物直売所の運営など活動も多彩。最近ではあんずやラ・フランス栽培も開始。他町の注目も集めています。

